

■次年度以降の追加事業の検討について(平成28年度共生ビジョン懇談会での意見集約)

番号	記号	事業名	各市町からの具体的な事業イメージの提案	左記へのH28年度第1回懇談会での直接的意見	関連意見	今後の検討の方向性
1		人道支援としての第三国定住				
	A	人道支援, 異文化理解としての難民の受け入れ	受け入れ体制の確立をはじめ, 現状では課題が多いことから, 将来的な検討事項としたい。(同様の意見複数)	特に意見なし		事務局において・国の取り組み(パイロットケース等)などの情報収集に努め, ビジョン懇談会に随時情報提供する。
2		人口減少対策としての「海外からの若年層の受入」				
	B	国際化の推進に向けた企業などでの受け入れ	・既存の斡旋業者, 団体はあるが, 南北海道で新たなサービスを展開する団体を設立する。(福島町)	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ後の教育体制に課題がある。 留学生向けの講座を大学間連携で実施する予定があるので, 広げられたらいい。 函館市ではHIFなどの民間団体も日本語講座や日本語教育に取り組んでいる。大学と合わせて連携した活用を検討したい 	<ul style="list-style-type: none"> 技能研修生への地域文化学習機会の提供(日本語, 地域観光など) 	<ul style="list-style-type: none"> 事業化の可能性について継続して検討する。
	C	観光業などの産業活性化への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 現在, 観光分野で受け入れはないが, 上記と同様に進めることは可能ではないか(福島町) インバウンドが遅れている理由として, 言葉の壁が大きく通訳として活躍できる人材を募集することを想定(せたな町) 			
	D	短期間就労体験実施を定住につなげる	・水産加工業では町内に居住を確保して受入している。(鹿部町)			
	外国人観光客誘客のための人材育成・掘り起こし					
3	E	留学生をはじめとした在住外国人への就労情報の提供	・南北海道で情報発信できる体制を整備(職安との調整も絡めた検討が必要)(福島町)	特に意見なし	<ul style="list-style-type: none"> 停車場(電車・バス)案内アナウンスにおける外国人にわかりやすい情報提供のアナウンス 函館観光情報サイト「はこぶら」の中国や台湾での検索エンジンでの上位化 	<ul style="list-style-type: none"> 関係部局と協議するなど, 継続して検討する。
	F	通訳者育成に向けた外国語セミナーの実施など	<ul style="list-style-type: none"> 南北海道で勉強, 研修できる体制づくりを進める(福島町) 在住ALTか外部講師を活用し, 一定期間実施することを想定(せたな町) 			
4		地域住民のニーズに即した「医療」と「福祉」の連携				
	G	療養後における身近な地域での居住など	<ul style="list-style-type: none"> 函館市や北斗市と連携した高齢者サービスの福祉サービス提供を効率的に進める体制づくり(福島町) 町内には医療機関や福祉サービス事業所が少ないため, 現状のサービス等で生活を維持できるかはわからない。(鹿部町) 	特に意見なし	<ul style="list-style-type: none"> 道南における医学部設立など医療従事者の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 事業化の可能性について継続して検討する。
5		地域バス路線の維持・確保				
	H	多様な車両による地域公共交通の改善	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が安全で快適に利用できる車両のあり方を検討し提案する(福島町) 大型バスから小型バスやワゴン車などへの転換を想定(せたな町) 函館バスや地域の交通事業者と連携し交通不便地域や高齢者の移動手段を確保するため小型車両による路線数の増加を図る(今金町) 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な車両による地域公共交通の改善には賛成。大型バスより小規模のバスを使う方が良いのではないかと。→大規模バスから中型化への入れ替えを行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 事業者や関連機関, 関係市町からの情報収集に努め, 具体的な事業化が進んだ際には協議事項とする。
6		地域特性を生かした産業の振興				
	I	地域の食文化・地元ならではの体験などのメニューづくりや情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 商工会や商工会青年部と地元の食堂が, 地元特産品を使った料理を共同開発(鹿部町) 各町のメニューを整理し, 道南全体のコースを選定し, 広く情報発信する。(福島町) 具体的な事業イメージまでには至らないが実施したい。(せたな町) 道南圏域HPを作成し, 食・文化・体験メニュー等の情報発信(今金町) 	特に意見なし		<ul style="list-style-type: none"> 事業化の可能性について継続して検討を進める。

■次年度以降の追加事業の検討について(平成28年度共生ビジョン懇談会での意見集約)

番号	記号	事業名	各市町からの具体的な事業イメージの提案	左記へのH28年度第1回懇談会での直接的意見	関連意見	今後の検討の方向性
7		地域の魅力創出				
	J	食などの豊かな地域資源の再発見	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会や商工会青年部と地元の食堂が、地元特産品を使った料理を共同開発(鹿部町) ・上記6と連動(福島町) ・具体的な事業イメージまでには至らないが実施したい。(せたな町) 	・特に意見なし		・事業化の可能性について継続して検討を進める
	K	大学ベンチャーなどの起業促進	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな企業の発掘、起業の促進を図り、町の活性化を図る(鹿部町) 			
L	地域コミュニティおよび交流の場の形成促進	<ul style="list-style-type: none"> ・移住促進事業の短期滞在型宿泊助成や体験プログラムにより地域住民と交流を図る(鹿部町) ・特に若者を中心とした交流の場を確保するための体制整備が必要(福島町) ・具体的な事業イメージまでには至らないが実施したい(せたな町) 				
8		観光振興による人口の増加				
	M	一層のPRIによる北海道新幹線開業効果の享受	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年度に事業完了したグルメパーク等、道外におけるPR事業を時間的なものとせず恒常的に実施する(七飯町) ・上記6と連動(福島町) ・具体的な事業イメージまでには至らないが実施したい(せたな町) ・東京アンテナショップを起点とした情報発信により交流人口拡大を図る(厚沢部町) ・南北海道観光パンフをテーマ別に作成・多言語化し、連携市町内に配備。同時にはこぶら等、各市町の観光サイトへの掲載をする。(今金町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はこぶら」から各市町へリンクする。→既にリンク済み。また道南圏域の各種イベント情報も随時発信している。(別添参考資料のとおり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域にある歴史的背景を中心市と連携してPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業化の可能性について、継続して検討する。
	N	各地域における観光組織の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・『環駒ヶ岳広域観光協議会』が七飯町、森町、鹿部町の自治体を中心に組織されているが、より実効性のある組織とするため、平成28年度において当該組織を中核としたDMOとして組織化する(七飯町) ・各町の観光組織のネットワーク化による取り組み(福島町) ・具体的なイメージまでには至らないが実施したい(せたな町) ・圏域内外のイベントでの合同PRの実施(今金町) 	特に意見なし		<ul style="list-style-type: none"> ・事業化の可能性について、継続して検討する。
9		その他(各市町で事業化を検討しているもの)				
	O	北海道教育大学函館校との相互協力(連携)	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドスタディ、フィールドワークの実施、町民との交流、意見交換・発表の場の確保、函館キャンパスの利用、長期休暇を利用しての滞在型の活動を展開(江差町) 			<ul style="list-style-type: none"> ・追加事業として変更(案)に登載済み。